

倉橋賞受賞にあたって

堀 端 孝 治



第25回日本保育学会において発表いたしました「小児の精神発達に関する追跡研究」第5報に対して、はから

ずも名誉あるそして伝統ある倉橋賞を受賞いたしましたことは研究者として大へんありがたく思っています。のちのべますように本研究のいと口についたばかりで、これからの研究であって、他の立派な研究内容と比べて大へん恥ずかしい限りであります。反面、このような息の長い研究はこれから大へんだから激励を兼ねて賞を与えようとの趣旨であったのではないかと理解しています。

受賞当日は大学の仕事で遅れて発表時間ぎりぎりにかかけつけ、発表を終わって昼食後、少し過労ぎみであったため、総会を休んでしまい、皆さまに大へんご迷惑をおかけしてしまいました。とりわけ主催の大阪樟蔭女子大

学の皆さま方にはいろいろのご配慮をいただきありがとうございました。

この研究は多くの研究者が一緒になって取り組んで、子どもの成長・発達の過程とともにいろいろな問題行動の発生のしくみや心身の障害の成因などを明らかにしようとしています。が、研究者のほかに事務整理・連絡などをしていただいている名古屋市当局の方々やアルバイトの学生のみなさんの、陰の力が大きく働いて成果が出てきたものですので、賞を受けたのは私ではなく、これらの皆さまの力があったものと考えてともに喜びあっています。そして今後一そう皆さまの力に支えられて研究を進めていきたいと決意を新たにしています。

保育学会の皆さんのご激励とご指導を今後ともお願いいたしますとともに、ご発展を祈るものであります。